

ほふたえ

鶴岡発

絹のみちしるべ

羽前絹練通信

第6号 2018・冬号

The road to Silk・Uzen Kenren



余寒お伺い
申し上げます

生地の種類や質によって微妙に調整しながら霧吹き作業で湿気を与える(上) その生地をテンター(幅出し機)にセットし乾燥させ幅を決まった長さに仕上げる(下)



この工程はほぼ1人の手でこなしている

生地の幅を合わせる作業は、女性職人たちの確かな知識と技術と経験、そして生地をいたわる繊細さが生かされている。

おらだの 仕事場 Vol.6 仕上(霧吹き・テンター)

生

地が精練された後、「仕上」といわれる工程は、大きく「マングル(すすぎ)+乾燥」と「霧吹き+テンター」に分けられる。わかりやすく言えば、前者は「生地のしわを伸ばす」工程であり、後者は「生地の幅を決められた長さにそろえる」工程である。シリンドラーを通してしわが除かれて送られてくる生地は乾燥し、顧客の指定したサイズより縮んだ状態になっている。



生地の種類や性質に応じて霧吹きの量や時間を調整する

この生地に霧吹きをし水分を与え、一定の柔軟性を持たせる。乾燥したまま幅を揃えようと引っ張っては生地を傷めてしまうからである。その霧吹きも生地の種類、柄、厚さ、長さなどによって微妙に量や時間を調整しなければならぬ。まさに熟練した技術が求められる重要な工程である。霧吹きを経て適度に水分を含んだ生地は、「テンター」という幅出し機に送られる。指定



テンターで生地の幅が整えられていく



幅が整えられ捲かれていく生地

の幅を設定し、生地の両側をかませ、ガスの熱で蒸しながら幅を揃えていく。生地の状態を見守りながら、両手と時には足も使いながらの集中力のいる作業となる。現場では、わずかに二人の女性職人がキビキビと動き、息の合った連係で正確に作業をこなす。この工程を経て幅が整えられ、生地はいよいよ最終検査へと送られていくのである。

おらだの職人さん Profile 6

練りから出荷まで期間が短く、生地の種類・性質も異なるため、霧の量、生地巾を素材に合わせています。お客様の大切な品物なので、目をかけ、手をかけ、より良い物が仕上がるように仕事に取り組んでいます。仕上げた物が製品となって店頭で見かけると嬉しく感じます。



整理課 係長(仕上・霧吹き・テンター担当)

児玉 操 (平成16年入社)

多彩な特殊加工技術で対応

- ・オパール加工・樹脂加工・毛焼き加工
- ・オイリング・スリップ止め・ピーチ加工・柔軟加工
- ・UVカット加工・防燃加工・撥水加工・抗菌加工
- ・湯通し加工・湯煮(糊落し)・漂白仕上 など

お気軽に何でもご相談ください!

仕上げ後加工 〔特殊加工業務〕



水洗加工



※4旬程度から

染色



絹織物・絹交織織物
(スカーフ・服地等)
※2旬~30旬以上まで

羽前絹練の主な業務工程



はふたえ

第六号発刊にあたって

羽前絹練株式会社

代表取締役 **阿部 純次**

第二次世界大戦後の1951年5月1日、弊社は新生羽前絹練株式会社として再出発を果たした。その後、朝鮮戦争特需を契機にした戦後復興の波に乗って再び繊維産業が発展の兆しを見せ、アメリカ本国の景気の上昇によって絹織物輸出が順調に伸長していった。

しかし、1960年代に入ると石油化学工業の隆盛によって世界的な合成繊維の時代になり、1963年、64年には海外市場での合成繊維が市場を席捲するようになる。絹織物は徐々に売上が減少傾向となる。追い打ちをかけるように、1970年代になると、繊維製品をめぐる日米貿易摩擦が表面化し、経営に影響を与えるようになった。

絹のみちしるべ

5

輸出産業としての外圧による経営危機であり、高度成長期と呼ばれる時代は、この業界にとっては実は危機的な時代であった。日本国内でも東洋レーヨンや倉敷レーヨンなどかつての紡績資本が合成繊維に転換していく時代であった。さらに1972年の歴史的な日中国交回復後は、中国の絹織物が輸入されるようになり産地間競争はさらに熾烈となった。こんな中、旧態依然とした伝統的な絹織物業が生き抜くのは難しい時代となっていた。

羽前絹練はこんな時代の中、内需への転換を図り経営危機を乗り越えていった。全国の絹精練業者が合成繊維加工に転換していく中、自らは絹織物精練に留まり、積極的に

2015年夏、弊社の企業理念や業務内容、絹織物に関する知識、有数の絹織物産地である地元鶴岡などについてご紹介したいと考え、「はふたえ(鶴岡発)絹のみちしるべ」を発刊してから、おかげさまで発刊を重ねること今回で第六号となりました。

これまで以上に弊社業務や鶴岡絹織物をご理解いただくための一助として、今後ともご愛読いただければ幸いです。

寒さ厳しい折りではございますが、ひととき、一息ついてゆったりとご高覧いただきますことを願っております。



合成繊維の普及による絹織物輸出の衰退の中、ハンデを逆手にとった経営の打開策とは...

時代の風雪を乗り越えてきた当社正門の銘板

県外に営業活動を展開し、設備投資を行った。全体として市場が縮小する中で存続・残存することで、国内絹織物産地からの精練加工の受注が羽前絹練に集中し、結果としてシェアを伸ばしていった。

後進地域としてのハンデを逆手に取った、この「残存者利益」という生き残り戦略によって経営危機を乗り越えていった。

社の命運を賭けた生き残り戦略とは

さらに捺染部門に進出し業務を多角化。スカーフ、マフラー、アクセサリ商品のブームに支えられ、精練、染色、プリント業務の拡大により、伝統的な絹織物製品を凌駕する大衆向けの新製品を販売することに成功した。

しかし、新たな経営戦略で危機を乗り越え、前向きな機運が満ちていた時期に、やがて世界経済を揺るがすことになる「石油危機」が迫ってきていた。(次号に続く)

参考文献:金屋・風間創業二二〇年史

鶴岡散歩

観光・風土・自然・味覚

赤い塔、白亜の聖堂、黒い聖母マリア像...訪れる人を異国情緒に誘う国の重要文化財



鶴岡カトリック教会天主堂

明治時代にフランス人神父の設計と多くの人々の寄付によって建てられたロマネスク様式建築の傑作として名高い。世界でも珍しい黒いマリア像が見られるのは国内ではここだけ。武家門構えの正門、豊敷きの聖堂など、城下町らしさも色濃く残している。

焼けた味噌の香りと青菜が食欲そそる庶民の味

弁慶めし

味噌を塗ったおにぎりに、山形名物の青菜漬を巻き、焼いて食べる素朴な味。味噌を焼いた香ばしさと青菜漬のピリッとした辛みが食欲をそそる。藤沢周平原作の映画「隠し剣 鬼の爪」でも、主人公が海辺でおいしそうに頬張るシーンが描かれている。



弊社表玄関



羽前絹練株式会社

〒97-0044 山形県鶴岡市新海町21-1
TEL:0235(24)1300 FAX:0235(24)1302
e-mail mail@uzen-kenren.co.jp
URL <http://www.uzen-kenren.co.jp>